

新型コロナウイルス感染症発生時の 消毒マニュアルVer. 1

- 1 新型コロナウイルス感染症の感染経路
- 2 感染者が確認されたときの消毒の実施者
- 3 消毒作業の流れ
- 4 消毒作業物品の準備
- 5 消毒方法
- 6 個人防護具の着脱の順番
- 7 手洗い方法
- 8 個人防護具の着用に関する注意事項
- 9 参考資料

津山市新型コロナウイルス感染症対策本部作成(R2年8月)

1

1 新型コロナウイルス感染症の感染経路

新型コロナウイルス感染症の感染経路は
「飛沫感染」「接触感染」

- 飛沫感染・・・感染者の飛沫(くしゃみ、咳、つばなど)と一緒にウイルスが放出され、他の人がそのウイルスを口や鼻などから吸い込んで感染すること。
- 接触感染・・・感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手で周りのものに触れるとウイルスがつく。他の人がそれを触るとウイルスが手に付着し、その手で口や鼻を触ることにより粘膜から感染すること。

2

2 感染者が確認されたときの消毒の実施者

- 消毒は施設の所有者が実施する。
- 保健所は、感染症のまん延を防止するために必要があると判断した際に、施設の消毒命令を発令する。
- 感染者が発症した時から72時間さかのぼり、それ以降に滞在していた接触場所に消毒命令が発令される(72時間以上経過後はウイルスは死滅する)。

※消毒が必要となるのは、感染者が接触した可能性のある施設の共有部分(テーブル、椅子)、建物の共有部分(ドアノブ、エレベーターのボタン等)など。

※新型コロナウイルスの残存期間は72時間である。

※無症状の濃厚接触者が触れたものの消毒は不要である。

3

3. 消毒作業の流れ

(1) 事前準備

- ①消毒方法について周知
- ②感染者が確認された際の、当該部署の一時閉鎖、業務継続等に関して周知

(2) 消毒

- ① 消毒エリア(フロア・課)を選定。 ※保健所に相談
- ② 作業物品の準備
- ③ 防護服の着用
- ④ 消毒作業
- ⑤ 防護服を外す
- ⑥ 消毒の完了

4

4. 消毒作業物品の準備

(1) 消毒の際の必要物品

【消毒物品】

- ・消毒薬 ①アルコール
- ②次亜塩素酸ナトリウム希釈液

※次亜塩素酸ナトリウムを含む家庭用塩素系漂白剤
商品例としてはハイター、ブリーチ、ピューラックス等

- ・ペーパータオル、キッチンタオル(拭取り用)
- ・ビニール袋(消毒作業後のマスクやペーパータオルを破棄するため)

【作業時の感染を防ぐための個人防護服】

- ・手袋
- ・マスク
- ・ゴーグル又はフェイスシールド(目の保護)
- ・ガウン(エプロン) ※撥水性のレインコート、ゴミ袋等で代用は可能

【手洗い用石鹸・手指消毒用アルコール】

5

(2) 消毒薬の特徴

分類	商品名	有効成分			留意点
		手指	細菌	コロナウイルス	
次亜塩素酸ナトリウム	ハイター ブリーチ ミルトン	×	○	○	・酸性の薬剤と混ぜると有毒ガスが発生する ・金属を腐食させるおそれがある ・保管は冷暗所で行う
消毒用エタノール	ウエルパス 消毒用エタプラス	○	○	○	・臭気がある ・即効性がある ・反復しようすると肌荒れを起こしやすい ・洗浄効果がないので、肉眼で見て汚れている場合は、まず汚れを落とす

6

(3) 消毒薬の準備

消毒薬の作り方(次亜塩素酸ナトリウム溶液)

現液の濃度に応じて希釈

●水に加える現液の量(ml) = $\frac{\text{作成する次亜塩素酸ナトリウム溶液の濃度}(\%) \times \text{作りたい消毒液の量}(\text{ml})}{\text{原液の濃度}(\%)}$

●500mlペットボトルを活用して次亜塩素酸ナトリウム溶液(0.05%)の消毒液を作成する場合の例

原液の濃度	原液の量	水
1%の場合	25ml(ペットボトルキャップ5杯)	500ml
6%の場合	5ml(ペットボトルキャップ1杯)	500ml
12%の場合	2ml(ペットボトルキャップ1/2杯以下)	500ml

※次亜塩素酸ナトリウム溶液は金属面などについては腐食を起こすので、水を絞った雑巾などで拭き取る。

7

(4) 消毒薬及び消毒場所

消毒薬	濃度	場所	消毒箇所
次亜塩素酸ナトリウム	0.1%	トイレ・洗面所	排水溝、便器
	0.05%	居間・食堂	ドアノブ、窓の取手、照明のスイッチ、ソファ、テーブル、椅子、電話機、パソコンのキーボードとマウス、小児の玩具、床、壁など
		台所・トイレ・浴室	水道の蛇口、シャワーヘッド、浴槽、洗面器、ドアノブ、窓の取手、照明スイッチ、流水レバー、便器のふた、汚物入れ、壁、床など
		共有部分	<ul style="list-style-type: none"> エレベーター・エスカレーター：呼び出しボタン・停止ボタン、エスカレーターの手すり 階段の手すり 建物への出入り口：ドアノブやハンドル、セキュリティ対応のオートロックボタンなど不特定多数の人が触れる部分 共有トイレ、給水場所など 電話機
消毒用エタノール	60%以上		<ul style="list-style-type: none"> 手指 手で触れる部分

8

(5) 消毒時の注意事項

- ①消毒するときは十分な換気を行う。
- ②消毒作業は上から下に行う。
- ③拭取りは同一方向に拭取り、後戻りしない。
(1回拭取るごとにペーパータオル等は廃棄し、使いまわさない)
- ④消毒薬の噴霧(スプレー)は不完全な消毒やウイルスの舞い上がりの可能性があるので避ける。
- ⑤作業中、薬剤臭が強いと感じた場合は、薬剤臭が消えるまで、十分な換気を行う。
- ⑥通常の清掃以上の床や靴底の消毒は、作業を増やすことで手指衛生などの感染予防対策が不十分になるので不要である。シューズカバーは使用しない。
- ⑦消毒液を空間噴霧することは、効果が不確実の上に人が吸引する恐れがあり、人の健康に有害となりうるため行わない。

9

5 消毒方法

【次亜塩素酸ナトリウム】

- ①次亜塩素酸ナトリウムの消毒薬を作り、バケツに移す。
- ②ペーパータオルを消毒液に浸けて、軽く水気をきる。
- ③手が触れる場所や物を意識して、汚れやウイルスを広げないように一方向にしっかりと拭く。金属部位は腐食防止のために、10分程度たつと水拭きする。
- ④拭き終わったペーパータオルは順次ポリ袋に捨てる。

【消毒用エタノール】

- ①消毒薬でペーパータオルがしっとり濡れるようにする。
- ②手が触れる場所や物を意識して、汚れやウイルスを広げないように一方向にしっかりと拭く。
- ③拭き終わったペーパータオルは順次ポリ袋に捨てる。

10

6 個人防護具の着脱の順番

(1) 装着の順番

手指消毒 ⇒ ガウン ⇒ マスク ⇒ ゴーグル等 ⇒ 手袋



※手袋でガウンの袖を覆う

(2) 外す順番

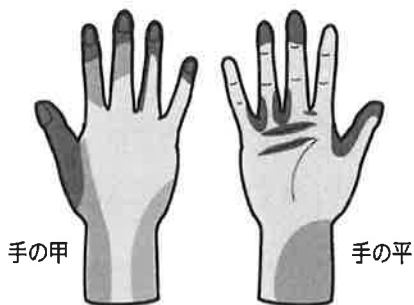
消毒⇒手袋⇒手指消毒⇒ゴーグル等⇒手指消毒⇒ガウン⇒手指消毒⇒マスク⇒手洗い



※一つの動作ごとにアルコール消毒を行う。

7 手洗い方法

色の赤いところほど汚れの落ちにくい箇所です。



- ・ 指先や爪の間
- ・ 指の間
- ・ 親指周り
- ・ 手首
- ・ 手のしわ

① 洗う部分を水でぬらす	② 石鹸を適量取る	③ 泡をしっかりと立て掌と手の甲を洗う
④ 指の間をしっかりと洗う	⑤ 指先、爪先しっかりと洗う	⑥ 親指の周囲をしっかりと洗う
⑦ 両手首を丁寧に洗う	⑧ 流水で十分洗い流す	⑨ ペーパータオルで水分を拭き取る

8 個人防護具の着用に関する注意事項

(1) 手袋の外し方

① 片方の袖口をつかむ	② 手袋の裏表が逆になるようにはずす	③ 手袋を外した手を反対の手袋の袖口に差し込む
④ 手袋の裏表が逆になるようにはずす	⑤ 手袋を外した後は、手指衛生を行う	

【手袋を外す際の注意事項】

- ・ 使用後に汚染された手袋で周囲のものに触れない。
- ・ 手袋を外すときは、汚染面(手袋の表面)を素手で触れない。

(2) マスクの装着・外し方



15

(3) ガウンの装着



ガウンの代用になるもの

- ・撥水性のレインコート(使い捨雨合羽等)
- ・ゴミ袋に底に1か所、側面に2か所の穴をあけてレインコートのように被る。ただし、腕の部分が露出するため、汚染されても洗浄できるように、ひじから下は衣類をつけない。

16

(4) ガウンの外し方

①首の後ろのひもを解く	②腰の後ろのひもを解く	③一方の袖の内側へを滑り込ませる	④滑り込ませた手を袖口にかけて引き抜く	⑤引き抜いた袖の汚染面でもう片方の袖の汚染面を持ち汚染しないように手を	⑥袖の中に引き込んだ手でもう片方のガウンの袖を持ち、手を引き
					
⑦腕を引き抜く	⑧引き抜いた手を反対側のガウンの肩の内側へ入れる	⑨ガウンの内側に入れた手を滑らせて腕を抜く	⑩汚染面を内側にして丸める	⑪小さく丸めて廃棄する	⑫脱いだ後は、手指衛生を行う
					

【注意事項】

- ①外すときは、汚染面(外側)を素手で触れない。
- ②ガウンを外すときは介助者がいると安全に脱ぐことができる。

- ③首の後ろのひもを解くときは介助者が手伝うと安全に脱ぐことができる。
- ④ゴミはビニール袋に入れて密閉して廃棄する。

(5) エプロンの装着・外し方

①着用前に手指衛生を行う	②首の部分を開き、首をかける	③エプロンの前を開く
		
④ひもを腰の後ろで結ぶ	⑤エプロンの下半分を完全に開く	
		

①首の後ろのひもを切る	②前あてを前にたらす	③裾を手前に持ち上げ、汚染面を中に織り込んで、3つ折りに
		
		端を持つか、裏から持ち上げ
④腰の後ろのひもを切る	⑤汚染した表面を中にしてたたみ、縛って小さくまとめ、廃棄する	⑥脱いだあとは、手指衛生を行う
		

9 参考資料

引用文献

- ・医療機関における新型コロナウイルス感染症への対応ガイド第3版(一般社団法人 日本環境感染学会)
- ・感染対応マニュアル(北いわて医療関連感染制御ネットワーク)
- ・新型コロナウイルス感染症の消毒を行う場合の注意事項(大分県東部保健所)

参考文献

- ・新型コロナウイルス感染症に対する感染管理(国立感染研究所)
- ・厚生労働省ホームページ
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/syoudoku_00001.html
- ・経済産業省ホームページ
<https://www.meti.go.jp/press/2020/06/20200626013/20200626013.html>

※美作保健所から助言を受けて作成